

## WEEKLY BULLETIN

会報 2016-2017

5月25日(木) 第40号  
第2833回例会  
第2510地区

●本日のロータリーソング 奉仕の理想

Rotary



## 新渡戸稲造と『武士道』 札幌東ロータリークラブ

北海道大学 教授 総長補佐 全学教育部長  
舩 和順 氏

新渡戸稲造は、旧五千円札の肖像として有名ですが、どのような偉業を成したかについては、あまり知られていないようです。そこでまず、新渡戸の足跡を辿りながら、その生涯を概観したいと思います。

幕末、南部藩士の三男として盛岡に生まれた新渡戸は、明治維新後、東京で英語を学習した後、札幌農学校に二期生として入学して農学を中心に幅広い学問を修めました。卒業後は、開拓使勤務を経て、東京帝国大学へ進学し、その面接時に「我、太平洋の橋とならん」と志望を述べたと伝えられています。また、アメリカ、ドイツへと留学し、帰国後は、母校の札幌農学校で教鞭を執るとともに、貧しい子女のために遠友夜学校を設立しました。さらに、台湾総督府技師、京都帝国大学教授、東京帝国大学教授、東京女子大学学長などを歴任した後、国際連盟事務次長に就任しました。事務次長時代は、オーランド諸島の帰属問題に裁定を下し、また国際知的協力委員会を創設しました。晩年は、太平洋問題調査会理事長として、アジア・太平洋地域の平和活動に尽力しましたが、カナダへの出張中、体調を崩し、ヴィクトリアで病没しました。

こうした多端な一生を見ますと、新渡戸は、教育者、研究者、文筆家、思想家など、さまざまな横顔をもつとともに、世界を股にかけて活躍した真の国際人であったことがわかります。

さて、新渡戸の著述は多いですが、その主著といえば『武士道』にほかなりません。アメリカでの病気療養中に英語で執筆した『武士道』は、その後、各国語に翻訳され、世界的なベストセラーになりました。その書で、新渡戸は、日本の「武士道」

本日のプログラム

## 新会員卓話

岡村 光浩 会員、細井 清 会員

について、西洋の「騎士道」と比較しつつ、それに勝るとも劣らない精神が存在するとした上で、一言でいうと、「ノーブレス・オブリュージュ (noblesse oblige)」、すなわち高貴な身分にともなう義務だと定義しました。その上で、「武士道」の具体的な徳目として、義・勇・仁・礼・信・忠・智などをとりあげ、一つ一つ解説しました。加えて、西洋人と日本人の習慣(たとえば、贈り物をする時や悲嘆にくれた時の表現方法など)の相違することを指摘しながら、多文化理解の必要性を説いています。

そもそも『武士道』は、ベルギーのド・ラヴレー教授の「宗教教育がない日本において、どのように道徳教育を行うのか」という質問が契機となって執筆されたといわれますが、その書を精読すると、そうした受動的な目的だけではなく、むしろ日本の文化、日本人の精神を、世界に向けて積極的に発信したいという意図のあったことが読み取れます。それは、偏狭なナショナリズム (nationalism) の「愛国心」ではなく、新渡戸自身の海外経験によって培われたパトリオティズム (patriotism) の「愛国心」に基づくものだといえます。こうした国際精神に則りながら、日本人の心の重要性を主張したところに新渡戸の真意があったとすると、グローバル化が急速に進む現代社会においてこそ、『武士道』から学ぶべきことは少なくないと思います。

マンスリー  
メモ

## 家族 (Family)

すべてのロータリークラブとロータリアンは、すべての活動を計画する際、ロータリークラブ会員の配偶者と家族のことを考慮に入れるべきである。これらの配偶者と家族は、ロータリークラブの奉仕目標に寄与することが出来る。(89-139)